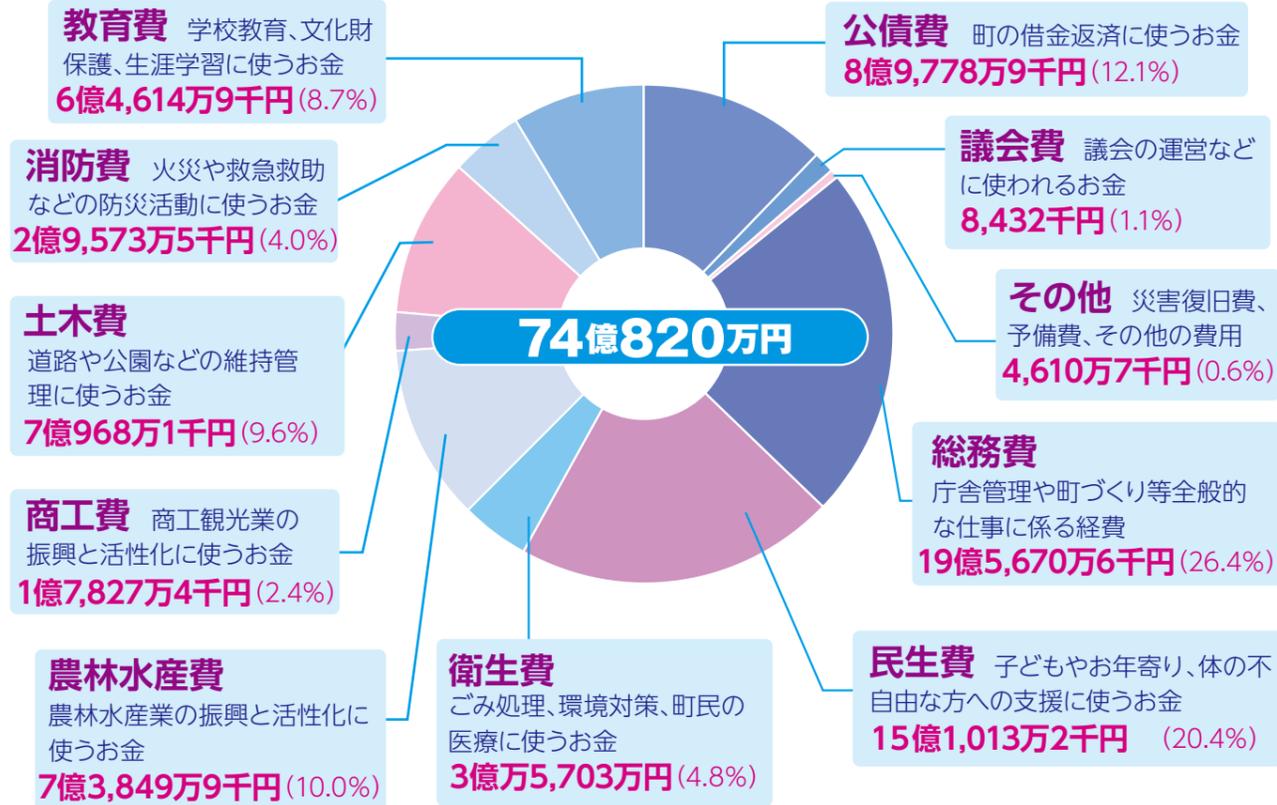


歳出(支出)

平成28年度の久米島町は、どのようなことにどれくらいのお金を使うのか見てみましょう。

《平成28年度一般会計 目的別歳出予算》



平成28年度の支出の特徴

今年の歳出の内訳を見ると、行政の運営経費や沖縄振興特別推進交付金事業を計上している(総務費)が26.4%と割合が高く、次に、福祉の充実に係る経費(民生費)が20.4%と続いています。次に借金の返済である公債費が12.1%、農林水産業費が10.0%となっており、昨年同様、上位4項目で全体の約68.9%を占めています。

義務的経費

職員の給料や手当などの「人件費」と子ども手当や障害者支援などの福祉医療に係る費用である「扶助費」、町の借金返済である「公債費」の合計
33億668万2千円(44.6%)

消費的経費

公共施設の光熱水費や管理費などの「物件費」、施設の修繕などの「維持補修費」、各種団体への補助金などの「補助費等」のことで、後年度に形を残さない性質の費用の合計
18億240万1千円(24.3%)

投資的経費

公共施設の建設や大規模改修、道路、公園、港湾の整備など将来にわたり使用するような施設を作る費用である「普通建設事業費」と災害が発生した際の復旧に係る「災害復旧費」の合計
15億2,416万(20.6%)

その他の経費

基金(貯金)への「積立金」や国保・後期高齢者医療、下水道など他会計への「繰出金」や予算編成時に予見できなかった経費に対応する「予備費」の合計
7億7,747万7千円(10.5%)

性質別
歳出予算

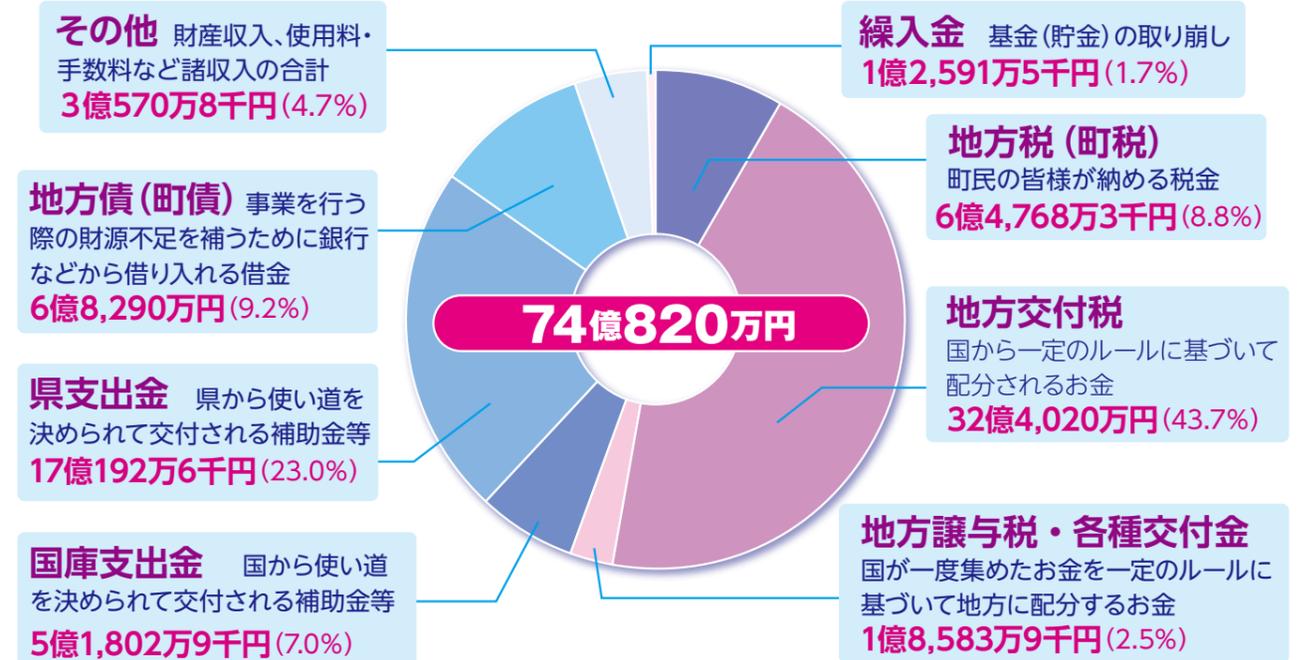
性質別に見た予算の特徴

- 必ず支払わなければならない経費である「人件費」「公債費」「扶助費」の割合が全体の44.6%と高く、財政の硬直化の傾向があります。
- 今後は行財政改革を推進し、定員管理による人件費の抑制と計画的な起債(借入金)活用による公債費の抑制を図る必要があります。

歳入(収入)

平成28年度の久米島町の収入にはどんなものがある、どれくらいの金額なのか見てみましょう。

《平成28年度一般会計予算 歳入》



平成28年度の収入の特徴

収入総額に占める地方交付税の割合が43.7%を占めており、また、国や県から使い道を指定されて交付される国庫・県支出金の割合が30.0%となっています。国や県から配分、支出される財源に大きく依存していることがうかがえます。

一方、町民の皆様が納めていただく町税が8.8%、財産収入や使用料、手数料などの諸収入が3.6%となっており自主財源が非常に乏しい状況となっています。

今後は町税の徴収率向上など自主財源を確保するための取り組みが重要になります。

町税の内訳はどのようになっているのでしょうか

町民税	2億3,427万4千円
固定資産税	3億1,666万2千円
軽自動車税	4,021万8千円
町たばこ税	5,641万円
鉱山税	11万2千円

皆さんが納める「個人住民税」と町内の会社が納める「法人住民税」があります。

町内に土地・家屋・償却資産(事業に使う機械など)を持っている人や会社が納める税金です。

軽自動車・オートバイなどを持っている人が納める税金です。

たばこの卸売業者などが町内の小売店などに売り渡した「たばこ」に対して係る税金です。

町内で鉱物を掘り出した人が、その鉱物を売り渡した価格に応じて課税される税金です。

過去7年間の町税の推移



平成27年度は徴収率は前年度比1.9ポイントの上昇し、金額では1%上昇しました。今後も引き続き自主財源の確保に向けた取組を強化する必要があります。